

学園の臨床研究

Clinical Study of Campus Life

〈富山大学保健管理センター紀要〉

大学入学センター試験における救護状況	松井祥子……………	1
発達障害のある学生に対する心理教育的支援の在り方	西村優紀美……………	9

※※※※ Contents ※※※※

Shoko Matsui :		
First aid in the National Center Test at University of Toyama	……………	1
Yukimi Nishimura :		
Psychoeducational support for students with developmental disabilities	……………	9

学園の臨床研究 Clinical Study of Campus Life

No.20 March 2021

〈富山大学保健管理センター紀要〉

大学入学センター試験における救護状況 松井祥子…………… 1

発達障害のある学生に対する心理教育的支援の在り方
西村優紀美…………… 9

※※※※ Contents ※※※※

Shoko Matsui :

First aid in the National Center Test at University of Toyama …………… 1

Yukimi Nishimura :

Psychoeducational support for students with developmental disabilities …………… 9

大学入学センター試験における救護状況

保健管理センター

松井祥子

First aid in the National Center Test at University of Toyama

Shoko Matsui

はじめに

2020年に大流行し、2021年に入っても終息の兆しが見えてこない新型コロナウイルス感染症のため、全世界が脅威にさらされ、生活様式を根本的に変えざるを得ない状況が続いている。感染症の流行状況に伴って高校や大学の授業形態や学生生活なども、大きな変更を余儀なくされ、通常の年間行事なども予定通りに行えない2020年であった。

そのようなコロナ禍の中で、一生を左右しかねない大学入試を迎える受験生の不安はきわめて大きいと考えられる。特に2021年は、30年間続いた「大学入試センター試験 (the National center Test)」が廃止され、英語の民間試験活用や記述式試験を目指した「大学入学共通テスト (the Common Test for University Admissions)」という初めての制度が導入された年であり、学生だけでなく、高校・大学の教師も、受験制度の改変とコロナ感染症に翻弄され続けた(民間試験や記述式試験は体制が整わず2021年は凍結となっている)。

一方で大学の教職員は、感染症流行の中にあっても、安心して受験をしてほしいと願いながら、2021年の共通テストのガイドラインに沿って、様々な準備を重ねてきた。密閉・密集・密接の3密を避ける試験会場の確保、トイレや会場への安全な誘導路の作成、手指が触れる場所の除菌作業、などに時間を費やした。保健管理センターのスタッ

フも同様であった。

そこで今回我々は、今後の感染症対策へのアーカイブとして、新型コロナウイルス感染症流行下の試験関連の準備と、これまでの富山大学の五福キャンパスにおける救護状況を調査した。

調査方法

2012年(平成24年)から2021年(令和3年)の10年間における、富山県の大学入試センター試験の受験志願者数・試験会場などを、独立行政法人大学入試センターの公開資料に基づき調査した¹⁾。また富山大学の五福キャンパス試験場における救護状況は、富山大学五福キャンパスに保管されている救急措置担当者による救護記録(2012年～2021年)により調査した。2021年度大学入学共通テストの感染予防対策は、「令和3年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン(令和2年6月19日付け大学入学者選別方法の改善に関する協議決定、令和2年10月29日改定、以下「ガイドライン」と略す)などをふまえた「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト 新型コロナウイルス感染症予防対策などについて」(令和2年11月6日入試セ事一第132号独立行政法人大学入試センター理事長通知)を参考に、富山大学五福キャンパス試験場で行った対策を記録した^{2) 3)}。

なお大学入試センター試験は、制度改変により2021年から「大学入学共通テスト」の名称となっ

たが、調査対象期間は「大学入試センター試験」であったため、以下「センター試験」の略称名を用いた。

結果

1. 富山県のセンター試験受験動向

2012年から2021年の10年間の富山県における大学センター試験受験志願者数（受験地が富山県の者）を大学入試センター公開資料から抜粋し、表1に示した。全国の受験志願者は概ね55万人前後で推移しており、富山県における受験志願者総数は、その約1%にあたる5000人～5500人で推移していた。

過去10年間の富山県内の試験会場は、富山大学五福キャンパス（富山市五福3190）、杉谷キャンパス（富山市杉谷2630）、富山県立大学（射水市黒河5180）、高岡法科大学（高岡市戸出石代307-3）、富山国際大学（富山市東黒牧65-1）の計5カ所で行われていた。その人数配分は、表1に示すように、毎年ほぼ同じであり、富山大学が県内の受験者の約80%を受け入れていた。

2. 富山大学での救急措置体制

2011年から2020年における富山大学五福キャンパス試験会場における救急措置体制は、保健管理センターを本部として、医師2名（大学の保健管理センター所属医師2名）、看護師5名（保健管理センター所属看護師3名、学外非常勤看護師2名）が配属され、看護師は学内に点在する会場

の距離を考慮し、救護要請に対して数分以内に応じられる場所に分散して配置した。また、医師は本部内に待機し、看護師の要請に応じて会場へ赴く形をとった。なお2021年は、コロナ感染対策のガイドラインに沿って試験会場数が増加したため、看護師2名（保健管理センター所属看護師1名、学外非常勤看護師1名）を増員配備した。杉谷キャンパスは、いずれの年度も医師1名、看護師1名（医師は学内教員、看護師は保健管理センター所属）が、試験会場近くに設営された救護室に配置された。

受験者の試験会場への入室時間は、1日目が8時50分～18時25分、2日目は9時～18時であるため、救護体制も8時～18時30分まで継続するが、1日目の英語リスニングのやり直し等が生じた場合は、19時30分まで延長となる。そのため、救急措置スタッフ（学外看護師を除く）の実働勤務時間は、打ち合わせ時間を含めて、1日目が12時間30分、2日目が11時間30分（いずれも休憩時間1時間含む）であった。なお学外看護師は試験会場（受験の選択科目により異なる）によって勤務時間が異なるため、1日目8時15分～17時15分、もしくは9時15分～18時15分（休憩1時間含む）、2日目8時15分～15時45分、もしくは8時50分～17時50分（休憩1時間含む）の勤務依頼とし、カバーできない時間帯は学内常勤看護師が補う形で対処した。

表1 富山県における大学センター試験受験者数（受験場別）の推移

実施年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
志願者数（全国）	555,537	573,344	560,672	559,132	563,768	575,967	582,671	576,830	557,699	535,244
富山県志願者（試験地区別）	5,291	5,558	5,301	5,402	5,225	5,340	5,400	5,586	5,603	5,043
五福キャンパス受験者数	3,451	3,777	3,561	3,748	3,400	3,510	3,570	3,751	3,747	3,293
杉谷キャンパス受験者数	750	675	630	544	745	750	750	755	750	649
富山大学受験者数 合計	4,201	4,448	4,191	4,292	4,145	4,260	4,320	4,506	4,493	3,942
富山県立大学受験者数	560	570	570	570	540	540	540	540	538	600
高岡法科大学受験者数	260	270	270	270	270	270	270	270	272	230
富山国際大学受験者数	270	270	270	270	270	270	270	270	300	270

3. 感染対策

2011年から2020年は、一般の救急用セット（血圧計、体温計、パルスオキシメーター、内用・外用医薬品）及びノロウイルス等感染対策用品（ビニールエプロン、手袋、滅菌防護服、キャップ、吐瀉物緊急凝固剤、塩素系消毒薬など）の準備を行った。特に冬期に流行するノロウイルス等の感染性胃腸炎に対しては、試験関係職員に感染性（疑）吐瀉物などへの対処方法（吐瀉物緊急凝固剤を用いた処理法や換気方法）を定期的に周知するようにしており、マニュアルも整備している。2021年はノロウイルス対策に加えて、新型コロナウイルス対策として、フェイスシールド、非接触型体温計、ディスプレイザブル多目的シート（休養が必要なときに寝具等を覆うため）などを準備した。（消毒用アルコールやフェイスシールドは入試課も準備した。）

4. 受験者の救護状況

2011年から2021年の五福キャンパスにおける救護要請状況を表2-Aに示す。教職員を除く救護要請数は、毎年約10人前後にとどまっており（受験者数の0.09%～0.36%）、大きな増減はなかつ

た。しかし、体調不良者の主訴は、その年度に流行していた感染症（感染性胃腸炎、インフルエンザ）などにより異なっていた。対処の内容は、診察後にベッド休養指示や医薬品投与などの対症療法がほとんどであり、救急搬送を必要としたケースはなかった。

有症状者が試験を続行するかどうかに関する方針は、症状に基づいて本人や保護者と調整した後に総合的に判断するが、症状の改善が認められない場合は、表2-Bに示すように別室受験や試験の中止などの措置が選択されていた。

なお2021年の共通テストでは、入試センターの感染対策方針により、体調不良者は健康状態のチェックを行った上で、希望により追試験の選択が可能であったため、試験の中止が3名と過去最多であった。

5. 受験の配慮決定者の動向

センター入試において、病気や負傷、障害などのために受験上の配慮を希望する場合は、大学センターにて審査の結果、試験での配慮が決定されることがある。大学入試センターの公表数は、H24年度は2,092人（全志願者の3.76%）であつ

表2-A 五福キャンパス試験場の救護要請者と内容

実施年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
受験生の救護要請総数（実数）	8	12	9	10	3	10	8	7	5	12
受験者に対する割合（%）	0.23	0.32	0.25	0.27	0.09	0.28	0.22	0.19	0.13	0.36
症状										
頭痛・めまい	3	1						2	1	1
発熱・悪寒・インフルエンザ様症状	1	1		1		1	2	3		2
消化器症状（腹痛・下痢・嘔吐）	3	6	8	5		6	3	2	3	6
呼吸器症状（咳）		1		2			1			1
精神症状（不安・過換気）	1		1	2	3	2	1		1	1
外傷・鼻出血・その他		2				1	1			1

表2-B 有症状者の受験方針

実施年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
別室での受験	3	3	4	5	1	5	2	3	3	3
試験の中止	1	1	2	1			1			3

たが、令和2年度には3,119人（同 5.59%）と増加傾向が認められていた（図1）。配慮決定の場合は、大学入試センターから事前に試験会場に通知があるため、その配慮内容に応じて会場の準備などを行う必要がある。県別の配慮決定者数は未公表だが、各都道府県とも同様の割合で増加傾向にあると考えられた。しかし調査期間の10年間に、五福キャンパス試験会場において、試験当日に配慮決定者が、救急措置を必要とする症状を認めた事例はなかった。

考察

世界中に新型コロナウイルス感染症が広がり、欧米の大

都市では厳格なロックダウン（都市封鎖）が行われている。日本においても政府は、2021年1月7日から東京を含む11都道府県に2回目の緊急事態宣言を出した。1回目は、2020年4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言を行い、4月16日に対象を全国に拡大し、5月25日によりやく全面解除となった。2021年1月の緊急事態宣言はそれに続くものであり、3週間を経た1月末でも、感染の終息が見えない状況であった（図2）。

一方で、2021年1月8日から11日まで北陸地方に訪れた非常に強い寒気の影響で、暴風雪警報が出て、富山地方は35年ぶりの豪雪になった。

図1 配慮決定者の動向

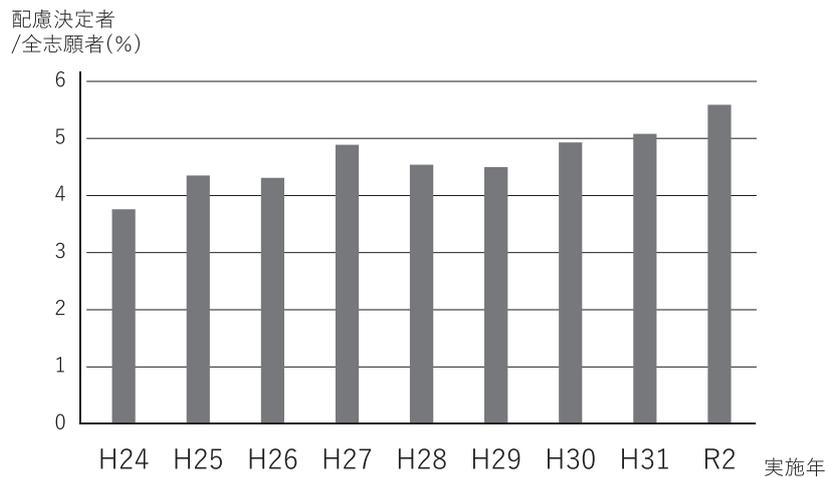
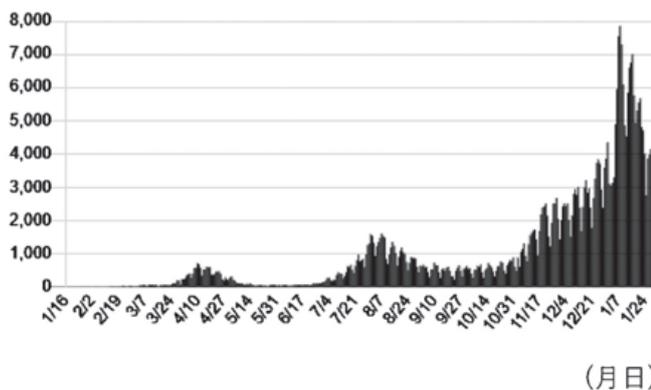
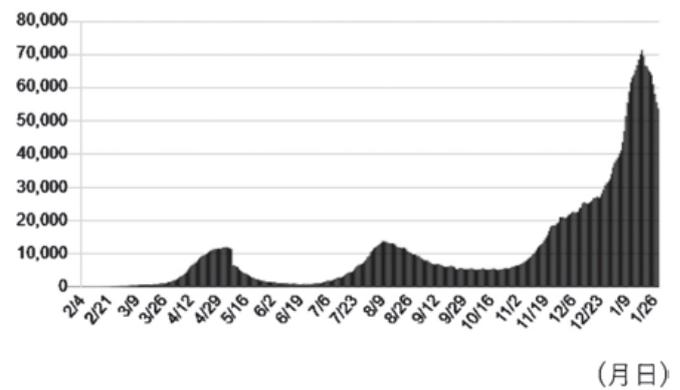


図2 日本国内の新型コロナウイルスの発生状況

(人) A: 新型コロナウイルスのPCR陽性者数



(人) B: 入院治療を要する患者数



厚生労働省資料 <https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html> より引用 (2021.1.25)

降り続いた雪により、積雪が1 mを超え、11日までに市内平地で124cmの積雪があり、金沢市(54cm)、福井市(97cm)に比べて、富山市が非常に多い記録となった⁴⁾。除雪が追いつかず、高速道路や一般道の交通が遮断され物流も滞ったため、市民生活にも大きな影響がでた。しかし県や市、鉄道会社などの昼夜の努力により、幹線道路や在来路線鉄道が1月14日頃、市内電車や路線バスなどの公共交通機関が1月15日ようやく再開通し、1月16日、17日の共通テストを予定通りに施行することができた。コロナ禍・雪害により、受験生の父兄や教師などは試験会場に入構禁止となったため、例年のような会場入り口での見守りや励ましの応援はなかったが、地域社会の多大な協力に支えられ、2021年の大学共通テストは無事に終了したと考えられた。

今回の調査により明らかになったことは、富山大学五福キャンパスが、表1に示すように富山県のセンター試験受験者の65～69%である3,500～3,700名ほどを毎年受け入れていることであった。全国の大学・高校等におけるセンター試験の試験会場と受験者数を調べると、令和2年度に689会場で開催された試験において、同一住所の会場で3,700名以上の受験生を受け入れている

のは、北海道大学試験場、筑波大学(同一住所で5会場)、東京大学本郷試験場、新潟大学試験場、富山大学五福キャンパス試験場、三重大学試験場、愛媛大学城北試験場、熊本大学黒髪地区試験場であった(表3)。富山大学の五福キャンパスの学生数は約6,600名ほどであり、杉谷キャンパス(1,900名)、高岡キャンパス(500名)を合わせても約9,000名の規模であるが(令和2年5月)、駅からの公共交通が至便なためか、多くの県内受験生を受け入れていることがわかった。ちなみに隣県の金沢大学角間キャンパス試験場は、2,965名(令和2年度)であった。2021年(令和3年度)は、感染予防策として受験生のソーシャルディスタンスを確保するため、各大学の受け入れ数は前年度より少なかったが、それでも富山大学のように3,200名を受け入れる大学はきわめて稀である(3,000名以上は、北海道、新潟、筑波、富山、三重、愛媛、熊本に加え、長崎大学文教地区試験場の8カ所のみ)。しかし受験者の受け入れが多いほど、試験会場となる大学は多方面にわたる対策を講じる必要が生じ、伴うリスクも大きくなる。2021年1月の北日本は、何度か警報級の暴風雪に見舞われており、特に1月8日から数日間続いた富山の雪害は甚大で、公共交通機関の開通が非常に懸

表3 受験者数の多い試験会場と受験者数

試験場名	住所	R2年度	R3年度	前年比減少率
北海道大学試験場	札幌市北区北9条西9丁目	4,051	3,837	5.3
筑波大学 合計	つくば市天王台1-1	5,677	5,371	5.4
第一試験場		1,395	784	
第二試験場		1,022	1,239	
第三試験場		1,365	1,356	
体育・芸術試験場		1,125	1,200	
医学試験場		770	792	
東京大学本郷試験場	文京区本郷7-3-1	3,773	2,826	25.2
新潟大学試験場	新潟市西区五十嵐2の町8050	4,111	3,882	6.6
富山大学五福キャンパス試験場	富山市五福3190	3,743	3,292	12.1
三重大学試験場	津市栗真町屋町1577	4,682	3,759	19.8
愛媛大学城北試験場	松山市文京町3番	3,715	3,583	3.5
熊本大学黒髪地区試験場	熊本市中央区黒髪2-40-1	3,707	3,367	9.2

念されていた。また1月16日は、北海道稚内地方も暴風雪があり、稚内北星学園会場の1日目の試験（志願者数73名）が、センター試験開始以来初の、まるごと再試験（延期）という事態も発生した。富山でも、もし寒気が一日長引いていれば除雪が間に合わずに試験が延期され、3000人以上の受験生が影響を受けたと思われる。荒天は、受験生やその父兄のみならず、試験実施者や地域社会にとっても安全面や心理面での負担が非常に大きい。全国一律の試験においては公平性の担保が重要であり、公共交通機関などの地域社会の協力も不可欠である。近年は全国的に自然災害が増加傾向にあるため、地域の状況をふまえた試験の時期・方法などを十分に議論する必要があると考えられた。

また冬期は例年、インフルエンザや感染性胃腸

炎などの流行もみられるため、十分な感染予防策も欠かせない。しかし今回の調査結果では、発熱や下痢等の症状を認める受験生は多くないことが判明した。この結果は、受験生や高校・予備校における感染予防策が徹底しているためと解釈できる。1年のうちの2日間のイベントにおける体調不良者が受験者の0.4%に満たないという事実は、昨年から続いているコロナ感染症の流行動態を考える上で非常に興味深い。文部科学省と厚生労働省は、コロナ禍にある学生向けに「受験生のみなさんへ～新型コロナウイルス感染防止のための注意事項～」(2020年12月18日 図3)を公表し⁵⁾、受験に向けての感染予防を促していたが、受験生は注意喚起されるまでもなく、このすべての事項を遵守していたと考えられる。家庭も学校も予備校も、受験日に照準をあわせて細心の注意

図3 新型コロナウイルス感染防止のための注意事項（令和2年12月18日）

令和2年12月18日
文部科学省・厚生労働省

受験生のみなさんへ

～新型コロナウイルス感染防止のための注意事項～

これから大学受験を控えているみなさんが、新型コロナウイルス感染症の感染を最大限防止するため、次のことを心掛けてください。

※ 新型コロナウイルス感染症は、誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。身近に感染した人や症状のある人がいたとしてもそうした人を買求めることなく、感染症から自分を守る行動を心掛けてください。

- 体調がおかしいときは外に出ない、人に会わないこと
- 自主検温を行い、体調を把握すること
- 外出は必要最小限にとどめること

外出する際に心掛けること

- 普段からマスクを着用
- 食事の際は向かい合わず、会話は最低限にすること
- こまめな石けんやアルコールによる手指消毒^{*1}
- *1 洗っていない手で目や鼻、口などを触らないようにしてください。
- 密閉空間（複数人が集合する換気の悪い密閉空間である）、密集場所（多くの人が密集している）、密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や共同行為が行われる）を避けること

また、家庭内でも次のことを心掛けてください。

普段から心掛けること

- お互いに体調確認（発熱・咳等の症状がある場合は早めの医療機関受診）
- 家族は会食など外出先での感染リスクの高い場面をできるだけ減らすこと
- 家族での食事の際にも可能な範囲で距離を確保

体調のよくない家族がいる場合に心掛けること

- 同じ部屋での食事や睡眠をとらないような工夫をすること^{*2}
- *2 部屋を分けられない場合には、少なくとも2mの距離を保つこと、仕切りやカーテンなどを設置することを勧めます。
- 家族での会話の際もマスクを着用
- 家庭内でもこまめな石けんやアルコールによる手指消毒
- 手で触れる共有部分（ドアの取っ手やノブ等）の消毒
- 感染が疑われる家族がいる場合、毎時2回以上の換気の確保^{*3}
- *3 風の流れができるよう、2方向の窓を、1回、数分間程度、全開にしましょう。
- 心配かもしれませんが、受験生は感染が疑われる家族と接触しないこと

(大学入学者選抜について) 文部科学省高等教育局大学選抜課大学入試室 03-5253-4111(内線:4902)	(新型コロナウイルス感染症について) 厚生労働省の電話相談窓口 0120-965653(フリーダイヤル)
--	--

を払って協力していることも想像できる。2021年1月27日発表の大学入試センター発表のプレス発表資料では、第1回目の共通テスト時における新型コロナウイルス感染症罹患者は92名、濃厚接触者で試験当日に受験条件を満たさなかった者は132名であり、コロナ関連で第1回目を受験できずに追試験を受けた者は、計224名（志願者の0.04%）であった⁶⁾。また第1回目の試験において無症状で濃厚接触者のため別室受験を受けた者は187名（志願者の0.035%）であった。すなわち十分な感染予防を行った受験生という集団では、コロナ感染症の罹患率は、0.1%以下になり得ることが明らかになった。したがって新型コロナウイルス感染症の流行阻止も、このような大学受験生と彼らに関わる人たちの行動が範を示せるのかもしれない。

今後の感染対策には、国民全体が一定の期間、自覚をもって感染予防に徹底して努めることが、必要不可欠と思われる。

おわりに

感染症流行や雪害の中で行われた2021年の大学共通テストを機に、これまでのセンター試験の救護状況について調査した。その結果、富山大学の五福キャンパス試験場における受験生の救急措置要請は0.4%未満であり、受験生は体調管理に細心の注意を払っていることがうかがわれた。

新型コロナウイルス感染症が流行している中では、このような受験生と彼らを取り巻く社会の行動が、流行阻止の規範になると考えられた。

文献

- 1) 独立行政法人 大学入試センター <https://www.dnc.ac.jp/>
- 2) 令和3年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン
https://www.mext.go.jp/content/20201030-mxt_daigakuc02-000005144.pdf
- 3) 令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共

通テスト 新型コロナウイルス感染症予防対策等について

<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00040094.pdf&n=01>

- 4) 2021年1月11日 朝日新聞 <https://www.asahi.com/articles/ASP1C5PX4P1CUTIL004.html>

- 5) 新型コロナウイルス感染防止のための注意事項（文部科学省・厚生労働省）https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/coronavirus_yamamoto.html

<https://www.mext.go.jp/nyushi/>

- 6) 大学入試センター 令和3年1月27日プレス発表資料「令和3年度大学入学共通テスト（1月16日・17日）追試験の受験許可事由別の内訳人数」、「体調不良謝の受験状況」及び「無症状の濃厚接触者の受験状況」<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00040208.pdf&n=%E8%BF%BD%E8%A9%A6%E3%83%BB%E4%BD%93%E8%AA%BF%E4%B8%8D%E8%89%AF%E3%83%BB%E6%BF%83%E5%8E%9A%E6%8E%A5%E8%A7%A6.pdf>

発達障害のある学生に対する心理教育的支援の在り方

西村 優紀美

Psychoeducational support for students with developmental disabilities

Yukimi Nishimura

1. はじめに

2020年度初めの新型コロナウイルス感染症の拡大は、大学における学びの形を根底から揺るがしました。学生へのカウンセリングや修学支援も、対面による面談はできなくなり、オンラインでのカウンセリングや面談になりました。このような状況に戸惑ったのは学生だけでなく、教職員も同じでした。学生への連絡やオンライン授業の準備など、授業開始までの短期間にたくさんの準備をする必要がありました。

障害学生支援を行うアクセシビリティ・コミュニケーション支援室（以下、支援室）では、新入生への初回面談はかろうじて対面で行うことができ、支援に関する方針を確認することができました。在学生への連絡は電話やメールで行い、履修登録やオンライン授業の手続きなどの確認や精神面の確認を行うことに忙殺されました。一年前には想像もしていなかった事態に直面して、従来から歴史を積み上げてきた相談体制では十分に対応できないことが起きていることを実感しました。

富山大学は2007年度より発達障害学生の支援を開始しました。大学入学前から希望する高校生への情報提供を行い、入学後は、修学やコミュニケーション支援等の大学生活全般に係る支援、後半になると、卒論やゼミでの適応、就職活動の支援が始まり、卒業後も継続して就職活動をする卒業生の面談を行っています。また、就職した卒業生に対しては、本人の希望があれば、フォローアップ支援を行っています。大学における支援とは、「学生が新しい環境に参入するためのプロセスを

一貫して支援する」というミッションに基づいているからです。

発足当時から大切にしてきたのは、学生との対面による面談でした。修学支援を支援の目的としながらも、同時にコミュニケーション支援も行うことを目標に置いてきたので、その基本的な支援スタイルが崩れてしまうことに大きな不安を感じつつも、最も混乱しているのは学生であり、こういう時こそ、状況にあった支援スタイルに柔軟に変化させていくことが大切だと感じました。発達障害学生は、般化の困難さやこだわり等の特性により新奇場面への適応が難しいと言われていています。先が見えない現状と、いつもと違う環境、決定事項が刻々と変わっていく日々は、私たち支援者も先が見えない不安と、これまでの日常ではないことに混乱し、あたかも発達障害学生の日常を疑似体験しているような感覚を持ちました。この経験は、改めて私たちが大切にしている対話の意味を考えるきっかけになりました。

学生相談の領域に障害学生支援という新しい領域が加わり、大学の学生支援体制の変革を余儀なくされた10年前と同じような考え方の変換を求められているのだと思います。

2. 高等教育機関における心理教育的支援

心理教育とは、もともと精神疾患を持つクライアントとその家族に対する疾患の理解促進のために行われるものであり、具体的には服薬指導や家族内コミュニケーションの調整、クライアント自身の社会適応を促すソーシャルスキルトレーニングなどを意味しています。また、学校教育の場面

においても、「心理教育」の重要性は詠われており、特に、問題行動の再発防止、予防、エンパワーメントに力点を置いた「情緒面の育成」がアプローチの中心にあると言われてしています。

大学生は青年期から成人期に移行する発達段階において、自我と社会との相互関係の中で生起する心理・社会的危機に対して、人間関係や進学、就職、さらには人生観・価値観形成に至るまで、さまざまな場面で自己判断、自己決定が求められる時期でもあります。私たち大学関係者は、「青年期の発達保障」を念頭に置いて、障害学生の心理的成長・人間的成熟を援助し、大学および社会への適応を援助する役割を担っていることを忘れてはなりません。

3. 心理教育的支援の具体例とその効果

(1) 個別面談

個別面談は定期的に支援者との間で行われます。まず、「支援の目的・方法」に関して、支援者側から説明し、学生の了解を得ます。面談は修学支援が中心で、修学上の困りごとが出てきた場合、障害特性との関連があるかどうかを一緒に検討します。修学支援の根幹は、実行支援です。ライフ・スキルやスタディ・スキルを獲得することによって、修学状況が改善し、その事実が学生の自己効力感を高めることにつながります。

学生は支援者との対話で、さまざまな修学上の課題について語り、一緒に方策を練り、問題解決をしていきます。自分が問題解決に関与しているという事実が、学生に小さな自信を生み、自分自身への肯定的感情が芽生えるきっかけになるのだと思います。人は自分自身の重大なテーマに向き合おうとする時、もう一方でそれに匹敵するだけの自分への肯定的感情が必要であり、その自己肯定感が彼らの苦しい作業を下支えしているように思います。

発達障害のある大学生との対話は、現在の困りごとに焦点を当てていますが、語りは現在から過去のできごとの語りにうつっていく場合があります。うまくいくことが少なかった過去のつらい記憶が、今の自分を苦しめることもあります。が、「今、

確かにできている」という事実が、彼らのネガティブな自己認知を、肯定的な自己像に敷き直してくれます。出来事の語りや、アイデンティティの語りへと変わっていく対話が、ここでは展開されているように思います。卒業年度には、職業人としての未来の自分を思い描きながら、自己分析や企業分析を行っていく必要があります。自分にとってより良い環境を作っていくための「セルフ・アドボカシー・スキル」の獲得も、重要なテーマであり、個別面談での対話は青年期の発達課題を達成するための大切な場であると言えます。

個別面談の内容

- ・ 支援の目的・方法に関する合意
- ・ 障害学生に関する支援ニーズの把握
- ・ 修学上、問題となることがらの確認
- ・ 問題と障害特性との関連を話し合う
- ・ 修学上の困りごとを解消するための実行支援
 - ライフ・スキル (生活, 体調, 睡眠)
 - 自己管理スキル (スケジュール管理等)
- ・ 定期面談による修学状況の確認
- ・ 問題への対処法を探る
 - スタディ・スキルの伝授
- ・ 学生がより良い対処法を選択する
- ・ 合理的配慮に関する話し合い
- ・ 支援会議 (教職員との話し合い, 配慮内容の検討)

(2) コミュニケーション教育

コミュニケーション教育は、支援者によってさまざまな方法が考えられています。ソーシャルスキルトレーニングや行動療法、芸術療法、音楽療法など、小集団活動の方法は、対象となる学生の特性を考慮した多彩な内容を考えることができます。

私が大学で行っているコミュニケーション教育の内容を挙げていますが、活動の目的は、「安心でき、多様な価値観が尊重される場で、自分なりのコミュニケーション様式を創造する」こと、また、「他者の思いに気づき、相手の意図や気持ちを想像し、理解しようとする事」、そして、「自分の思いを他者に伝えるための方法を知ること」です。

コミュニケーションは強制されたり、考えを押し付けられたりしてスキルが獲得されるわけではありません。私は、コミュニケーション上の困りごとを抱えている学生に対して、豊かなコミュニケーションの場を提供すること自体がコミュニケーション教育の第一歩であると考えています。参加している人たちが、存在を脅かされることなく安心して交流できることが重要で、多様な価値観が尊重されるなかで、人は自分なりの関わり方に自信を持つことができるのだと思います。

コミュニケーション・ワークでは、具体的な関わりの中で相手の思いに気づいたり、相手の気持ちを想像したりする機会を持ちます。また、相手もまた、自分の考えを尊重してくれるという体験をすることができます。他者の思いに気づくこと、自分の思いを他者に伝えることができるようになるためには、ある程度のコミュニケーションスキルが必要です。心地よい集団の中で、他者とかかわることを楽しみ、自らコミュニケーションスキルを学びたいと思う、そんな場を提供することの意義は大きいと考えます。

学生本人がどのような工夫をしてできるようになったかも伝えていきます。

また、合理的配慮の申請により、どのように学びが保障され、評価として反映されたかについても報告していきます。

生活面に関する支援は、支援室では限界があるので、どの部分を家族に担ってもらうかを話し合います。

発達障害のある学生は、自分自身の体調について自覚することが難しい人が多いので、体調管理のサポートもしてもらうようにします。また、修学状況を正確に知ってもらうことによって、どのような就職のカタチが良いのかを、家族で話し合ってもらうことも視野に入れています。

学生の障害特性についての理解を深め、学生の頑張りをねぎらい、励ますことによって、学生自身が、家族から承認されることによる安心感、自己肯定感を持つことができます。青年期の発達を保障するための家族の役割は大きく、その安心基盤を背景に、卒業後の社会参入への意欲は支えられるのだと思います。

コミュニケーション教育

- ・ **小集団活動(ランチ・ラボ)**
 - 会食 (雑談しながらの食事)
 - テーマ・トーク：テーマを決めて、それに関する自分の考えや体験を表現する
 - グループの考えとしてまとめ上げる：メタ・ナラティブの生成
- ・ **コミュニケーション・ワーク**
 - グループで芸術的活動を媒介にした、非言語・言語的コミュニケーションを図る
 - 具体的な身体活動や楽器の演奏、絵を描くなどを、一人あるいは複数人で行う

家族支援

- ・ **修学の状況, 合理的配慮に関する報告**
 - 出席状況
 - レポート課題の提出
 - スケジュール管理
 - 生活面の課題
- ・ **生活面での問題**
 - 睡眠, 食事, 掃除, 洗濯, 金銭面の管理
 - 持ち物管理, 洋服, 清潔面
- ・ **体調管理への関心**
 - 体温計測, 睡眠表
 - 病院受診, 服薬

(3) 家族支援

家族支援は、学生の修学を支えるための重要な支援となっています。

家族との面談では、修学状況や合理的配慮に関する報告が中心となります。うまくいかない状況がある場合も、その事実を伝えますが、同時に、

4. 発達障害の特性がある学生との対話の意義

発達障害のある学生の支援において、対話は非常に重要な意味を持ちます。

対話においては、学生と支援者それぞれの思い

や考えが、二者間で共有されるわけですが、大切なのは、それぞれが語る言葉の意味が、相手に正しく伝わっているということです。

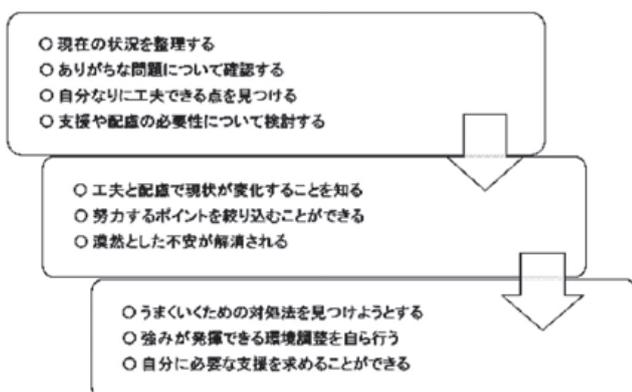
一般的に「自己」は、自分自身について物語ることを通じて 生み出されると言われています。

学生が自分自身の意思を自覚するためには、他者との対話の中で、自身の経験や思いを承認してもらい、共有してもらう必要があります、支援者は対話を通じてその機会を提供していることを自覚する必要があります。

対話がどのような意味を持つかについて少し考えていきたいと思えます。

学生が自分自身の意思を自覚するためには、他者との対話の中で、自身の経験や思いを語る場が必要です。面談の最初は、学生が現在の状況を支援者に報告し、実際に何があったかを整理します。もし、うまくいかない状況があれば、自身の特性やありがちな行動と照らし合わせ、問題の要因を話し合い、できる工夫について一緒に検討していきます。その中で、障害特性に起因するものであれば、合理的配慮の内容の検討を行います。

対話による自己理解のプロセス



次に、工夫や配慮により、問題が解消する体験をすると、学生は自分が努力するべき点を絞り込むことができます。エネルギーを学修に向けることができ、これまでの漠然とした「不安感」が解消されていきます。

そして、次の段階に入っていきます。発達障害のある学生は、より幅広く深い知識を得ることに

長けていますから、よりよい環境で学ぶことができると、そもそも持っている優位な能力を発揮できるようになっていきます。やる気がないように見えていた学生が、学び方の工夫を考え、学修環境が整うと、驚くほどの積極性を発揮することがあります。

自己理解のプロセスとは、「私にはどのような特性があり、どのような工夫や配慮があれば、他の学生と平等な学びのフィールドに立つことができるか」ということを、学生自身が考えるプロセスのことをいいます。大学関係者と学生との対話は、学生の自己理解を促進する機会としての意義があるとと言えます。

大学における障害学生支援において、「建設的対話」という言葉が良く使われています。

合理的配慮は、支援を必要としている障害学生の申出から検討が始まります。学生は自分に必要な配慮や支援を主体的に表明し、大学との建設的対話によって、共に決定していくというプロセスがここにはあります。

大学は、適切と思われる配慮を提案するために建設的対話を働きかける役割があります。障害のある学生が自ら社会的障壁を認識して正当な権利を主張し、意思決定や必要な申し出ができるように、必要な情報や自己選択・決定の機会を提供し、学生の「意思表明を支援」していきます。

「意思決定」とは、「自分の置かれた状況を客観的に認識して、意思決定を行う必要性を理解し、そうした状況に関連する情報を理解、保持、比較、活用して、何をしたいか、どうすべきかについて自分の意思を決めること」と言われています。この意思決定のプロセスに焦点が当てられることによって、意思決定を他者の支援を借りながら行う「支援された意思決定」の概念を取り入れることが可能となるのです。発達障害のある学生の中には、自分を含めた周囲の状況や困りごとを認識していなかったり、うまく表現できなかったりする人がいます。支援者は、学生が自分自身の最善の利益につながる自己決定ができるように、対話のなかで「今の状況と困りごと」を把握する

ために様々な状況を一緒に整理していきます。

学生が自分にとってよりよい選択、適切な判断ができるよう、支援者は慎重、かつ粘り強く関わりつつけていく心構えが必要です。私たち支援者は、学生の意思決定や意思表示を性急に求め、学生本人の自覚や意思を軽視してしまうことのないように、支援者としての役割を忘れないようにしなければなりません。

人は、自分自身の考えを他者に承認してもらう中で、自分と社会とのつながりを意識できるようになっていきます。社会性を獲得するには他者との語り、つまり、対話の場が必要です。将来に向けて、学生が自分なりの生活の仕方、学び方、働き方を、考え、選択することができることが大切であると考えます。

<参考文献>

- ・市橋直哉（2000）学校における心理教育的アプローチの構造：形式的側面を中心にして. 東京大学大学院教育学研究科紀要.39.245-253.
- ・スーザン・ヤングほか著, 田中康雄監修（2015）大人のADHDのアセスメントと治療プログラム. 明石書店.
- ・西村優紀美（2018）合理的配慮に基づく大学生への支援. 教育と医学66-11,74-81.
- ・西村優紀美（2018）基調講演 I 「発達障害学生の就労を実現するための支援の在り方」, 日本学生支援機構専門テーマ別セミナー：発達障害学生の就労を実現するための支援の在り方～意思表示支援とセルフアドボカシーを中心に.
- ・本博明（2002）<ほんとうの自分>の作り方－自己物語の心理学－. 講談社現代新書.

令和2年（R2.1.1-R2.12.31）研究業績

五福キャンパス

センター長・教授	松井 祥子	Shoko Matsui
准教授	西村優紀美	Yukimi Nishimura
講師	西山志満子	Shimako Nishiyama
看護師	角間 純子	Junko Kakuma
看護師	山田 真帆	Maho Yamada
看護師	中嶋仁紗子	Hisako Nakajima
公認心理師(非常勤)	細川 祝	Iwai Hosokawa
公認心理師(非常勤)	柴野 泰子	Yasuko Shibano
公認心理師(非常勤)	菓子井佐英子	Saeko Kashii

松 井 祥 子

【原 著】

- 1) Fujisawa Y, Mizushima I, Yamada K, Yamamoto M, Saeki T, Matsui S, Tsuge S, Hara S, Ito K, Fujii H, Takahashi H, Nomura H, Kawa S, Kawano M. Hypocomplementemia is related to elevated serum levels of IgG subclasses other than IgG4 in IgG4-related kidney disease. *Mod Rheumatol*. 2020 Jan 13:1-8. doi: 10.1080/14397595.2019.1709942. [Epub ahead of print].
- 2) Niwamoto T, Handa T, Matsui S, Yamamoto H, Yoshifuji H, Abe H, Matsumoto H, Kodama Y, Chiba T, Seno H, Mimori T, Hirai T. Phenotyping of IgG4-related diseases based on affected organ pattern: A multicenter cohort study using cluster analysis. *Mod Rheumatol*. 2020 Jan 4:1-6. doi: 10.1080/14397595.2019.1703522. [Epub ahead of print]
- 3) Nakamura T, Satoh-Nakamura T, Nakajima A, Kawanami T, Sakai T, Fujita Y, Iwao H, Miki M, Masaki Y, Okazaki T, Ishigaki Y, kawano M, Matsui S, Saeki T, Kamisawa T, Yamamoto M, Hamano H, Origuchi T, Hirata S, Tanaka Y, Tsuboi H, Sumida T, Okazaki K, Tanaka M, Chiba T, Mimori T, Umehara H.. Impaired expression of innate immunity-related genes in IgG4-related disease: A possible mechanism in the pathogenesis of IgG4-RD. *Mod Rheumatol*. 2020;30:551-557, 2020.
- 4) Wallace ZS, Naden RP, Chari S, Choi HK, Della-Torre E, Dicaire JF, Hart PA, Inoue D, Kawano M, Khosroshahi A, Lanzillotta M, Okazaki K, Perugino CA, Sharma A, Saeki T, Schleinitz N, Takahashi N, Umehara H, Zen Y, Stone JH; Members of the ACR/EULAR IgG4-RD Classification Criteria Working Group. The 2019 American College of Rheumatology/European League Against Rheumatism classification criteria for IgG4-related disease. *Ann Rheum Dis*. 2020;79:77-87.
- 5) Wallace ZS, Naden RP, Chari S, Choi HK, Della-Torre E, Dicaire JF, Hart PA, Inoue D, Kawano M, Khosroshahi A, Lanzillotta M, Okazaki K, Perugino CA, Sharma A, Saeki

- T, Schleinitz N, Takahashi N, Umehara H, Zen Y, Stone JH; Members of the ACR/EULAR IgG4-RD Classification Criteria Working Group. The 2019 American College of Rheumatology/European League Against Rheumatism classification criteria for IgG4-related disease. *Arthritis Rheumatol*. 2020;72:7-19.
- 6) Umehara H, Okazaki K, Kawa S, Takahashi H, Goto H, Matsui S, Ishizaka N, Akamizu T, Sato Y, Kawano M; Research Program for Intractable Disease by the Ministry of Health, Labor and Welfare (MHLW) Japan.. The 2020 Revised Comprehensive Diagnostic (RCD) Criteria for IgG4-RD. Dec 4:1-14. doi: 10.1080/14397595.2020.1859710. Online ahead of print.
- 7) Inomata M, Hirai T, Takata N, Murayama N, Hayashi K, Seto Z, Tokui K, Okazawa S, Kambara K, Imanishi S, Miwa T, Matsui S, Hayashi R, Tobe K. Relationship between Patient Characteristics and the Timing of Provision of Explanation about DNAR to Patients with Advanced Lung Cancer. *Intern Med*.2020;59:2989-2994.
- 8) Inomata M, Azechi K, Takata N, Hayashi K, Tokui K, Taka C, Okazawa S, Kambara K, Imanishi S, Miwa T, Hayashi R, Matsui S, Tobe K. Association of Tumor PD-L1 Expression with the T790M Mutation and Progression-Free Survival in Patients with EGFR-Mutant Non-Small Cell Lung Cancer Receiving EGFR-TKI Therapy. *Diagnostics (Basel)*. 2020 Nov 25;10(12):1006. doi: 10.3390/diagnostics10121006.
- 9) Azechi K, Takata N, Murayama N, Tokui K, Taka C, Okazawa S, Kambara K, Imanishi S, Miwa T, Hayashi R, Matsui S, Inomata M. Irinotecan monotherapy as third-or further-line treatment for patients with small cell lung cancer. *Tumori Journal* 2020
- 10) 松井祥子. 大学の保健管理の現状と考察. 学園の臨床研究. 2020 ; 19 : 1 - 6.
- 11) 中川圭子, 宮田留美, 松井祥子. 入学時および修学2ヶ月後の健康調査の有用性の検討. 学園の臨床研究. 2019 ; 18 : 19 - 22. (追記)
- 12) 岩田 実, 高倉一恵, 野口寿美, 松井祥子, 山本善裕. 本学学生におけるBMI分類ごとの血圧、生活習慣の特徴. 学園の臨床研究. 2019 ; 18 : 23 - 26. (追記)

【総説】

- 1) 松井祥子. IgG4関連呼吸器疾患の診断と治療. *Current Therapy*. 2020 ; 38(7) : 32 - 38.
- 2) 松井祥子. IgG4関連呼吸器疾患 最新の話題. *日本内科学会誌*. 2020 ; 109(8) : 1595 - 1601.
- 3) 山本 洋, 小松雅宙, 小沢陽子, 安尾将法, 上原 剛, 川上 聡, 小口和浩, 川 茂幸, 久保惠嗣, 松井祥子. IgG4関連呼吸器疾患. *呼吸器内科*. 2020 ; 38(6) : 555-531.

【学会報告】

- 1) Matsui S, Okazawa S, Tokui K, Kambara K, Imanishi S, Taka C, Yamada T, Inomata M, Tobe K. Outcome of IgG4-related disease patients that did not receive glucocorticoid therapy. *ATS 2020 Virtual*; 2020 Aug 5-9.
- 2) Komatsu M, Yamamoto H, Matsui S, Baba T, Miyamoto A, Handa T, Tomii Y, Waseda Y, Bando M, Ishii H, Miyazaki Y, Iwasawa T, Johkoh T, Yoshizawa A, Terasaki Y, Hebisawa A, Takemura T, Kawabata Y, Hanaoka M, Ogura T. Seventeen cases of “IgG4-positive interstitial pneumonia” characterized by elevated serum IgG4 levels and IgG4-positive

- plasma cell infiltrations in the lungs. ERS international virtual congress 2020; 2020 Sept 7-9.
- 3) 浅野 諒子, 津田 玲奈, 杉下 尚徳, 川高 正聖, 山崎 美帆, 木戸 敏喜, 朴木 博幸, 篠田 晃一郎, 多喜 博文, 松井 祥子, 戸邊 一之. Etanercept から Certolizumab-pegol に治療変更後にサルコイドーシスを発症した関節リウマチ症例. 第64回日本リウマチ学会総会・学術講演会; 2020 Aug 17-31; Web開催
 - 4) 岡澤成祐, 高田巨樹, 村山 望, 林 加奈, 勢藤善大, 徳井宏太郎, 神原健太, 今西信悟, 三輪敏郎, 林 龍二, 松井祥子, 猪又峰彦. 当科における特発性肺繊維症患者に対するニンテダニブの使用経験. 第60回日本呼吸器学会学術講演会; 2020 Sept 20-22; 名古屋 (オンライン)
 - 5) 勢藤善大, 高田巨樹, 村山 望, 林 加奈, 徳井宏太郎, 岡澤成祐, 神原健太, 今西信悟, 三輪敏郎, 松井祥子, 林 龍二, 猪又峰彦. 小細胞肺癌3次治療以降におけるイリノテカン単剤療法の効果と安全性. 第60回日本呼吸器学会学術講演会; 2020 Sept 20-22; 名古屋 (オンライン)
 - 6) 高田巨樹, 畦地健司, 林 加奈, 徳井宏太郎, 高 千紘, 岡澤成祐, 神原健太, 今西信悟, 三輪敏郎, 林 龍二, 松井祥子, 猪又峰彦. PD-L1陰性の非扁平上皮非小細胞肺癌患者におけるICI投与開始後の生存期間の解析. 第85回呼吸器合同北陸地方会; 2020 Oct 25; 福井 (オンライン).
 - 7) 林 加奈, 畦地健司, 高田巨樹, 徳井宏太郎, 高 千紘, 岡澤成祐, 神原健太, 今西信悟, 三輪敏郎, 松井祥子, 猪又峰彦, 林 龍二, 田森俊一, 野村 智. 免疫チェックポイント阻害剤を使用した肺多形癌の臨床経過の提示 (3例). 第85回呼吸器合同北陸地方会; 2020 Oct 25; 福井 (オンライン).
 - 8) 高田巨樹, 神原健太, 村山 望, 勢藤善大, 徳井宏太郎, 岡澤成祐, 今西信悟, 三輪敏郎, 猪又峰彦, 松井祥子, 林 龍二. 気管支閉塞にクライオバイオプシーを施行した一例. 第43回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 2020 Jun 26-27; 紙上開催.
 - 9) 村山 望, 神原健太, 高田巨樹, 勢藤善大, 徳井宏太郎, 岡澤成祐, 今西信悟, 三輪敏郎, 猪又峰彦, 松井祥子, 林 龍二. 気管支鏡検査の特異的所見から転移性悪性黒色腫と診断できた1例. 第43回日本呼吸器内視鏡学会学術集会; 2020 Jun 26-27; 紙上開催.
 - 10) 木戸敏樹, 松井祥子, 小檜山葵, 山崎美帆, 津田玲奈, 篠田晃一郎, 戸邊一之, 内田佳介, 江石義信. 血清可溶性IL-2受容体高値を伴う全身性サルコイドーシスの一例. 第40回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会; 2020 Oct 30-31; 大阪 (オンライン).
 - 11) 石木 学, 高倉一恵, 野口寿美, 福島佐和子, 山本善裕, 松井祥子. 新型コロナウイルス感染症禍での健康診断. 第58回全国大学保健管理研究集会; 2020 Nov 25-26; 京都(オンライン).
- 【その他】**
- 1) 松井祥子. 呼吸器領域分科会報告. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 「IgG4関連疾患並びに治療指針の確立を目指した研究」班 (中村班) 第1回合同班会議; 2020 Jul 31; オンライン.
 - 2) 松井祥子. 呼吸器領域分科会報告. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 「IgG4関連疾患並びに治療指針の確立を目指した研究」班 (中村班) 第2回合同班会議; 2020 Dec 27; オンライン.

西 村 優 紀 美

【著 書】

- 1) 西村優紀美(2020) 4章 実践編 01 当事者目線での想像, 対話と合理的配慮. 北川明編著 発達障害のある看護職・看護学生支援の基本と実践. メジカルビュー社, 108-126.
- 2) 西村優紀美(2020) 4章 実践編 02 学内教育・臨地実習・評価での応用. 北川明編著 発達障害のある看護職・看護学生支援の基本と実践. メジカルビュー社, 127-149.
- 3) 西村優紀美(2020)第8章 高等学校の特別支援教育に期待すること. 小田浩伸編著 高等学校における特別支援教育の展開. 金子書房, 98 - 106.
- 4) 西村優紀美(2020) 成人・青年期への支援(発達障害学生への支援). 一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構(編) 臨床発達心理士わかりやすい資格案内 [第4版], 101-104.

【学会、研究会等における学術講演】

- 1) 西村優紀美：富山大学における発達障害学生への修学支援・就労移行支援高等教育における障がい学生支援. 東北大学学生相談・特別支援センタースーパーヴィジョン研修会. 2020.2.22.宮城.
- 2) 西村優紀美：障害のある学生に対する合理的配慮～考え方と支援の実際～2020.3.16.岐阜.
- 3) 西村優紀美：医療系大学における発達障害学生への支援の在り方. 2020年度 日本特殊教育学会第58回大会 自主シンポジウム.2020.7.31.オンデマンド配信.
- 4) 西村優紀美：遠隔学生支援の利点と留意点～

発達障害学生とオンライン授業&支援～. 第51回学生相談セミナー.2020.8.2.オンライン研修会.

- 5) 西村優紀美：～専門職養成系高等教育機関：メディカルスタッフ養成分野を中心に～支援担当者の立場から、障害学生支援の役割を考える～発達障害学生の支援を中心に～. AJC 2020 (Ahead Japan Conference 2020) オンラインプログラム.2020.8.3.オンデマンド配信.
- 6) 西村優紀美・門目紀子・末吉彩香・柘植雅義：発達障害のある高校生に向けた大学体験プログラムの意義～高校生は何が知りたいのか、大学は何を準備できるのか～. 日本LD学会第29回大会自主シンポジウム. オンデマンド配信. 2020.8.28.
- 7) 西村優紀美：発達障害学生に対する組織的な修学・就職支援の取り組み～実践例をもとにした具体的対策について～. 国際医療福祉大学FD研修会.2020.9.16.栃木.

【社会活動】

- ・ 全国高等教育障害学生支援連絡協議会 理事
- ・ 独立行政法人日本学生支援機構障害学生支援委員会 委員
- ・ 石川県教育委員会 平成29年度生徒指導・発達障害サポートチーム 委員
- ・ (独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター発達障害学生就労支援研究委員会委員

西山志満子

【原著】

- 1) Takayanagi Y, Kulason S, Sasabayashi D, Takahashi T, Katagiri N, Sakuma A, Ohmuro N, Katsura M, Nishiyama S, Nakamura M, Kido M, Furuichi A, Noguchi K, Matsumoto K, Mizuno M, Ratnanather JT, Suzuki M. Structural MRI Study of the Planum Temporale in Individuals With an At-Risk Mental State Using Labeled Cortical Distance Mapping. *Front Psychiatry*. 2020 Nov 24;11:593952. doi: 10.3389/fpsy.2020.593952.
- 2) Tateno T, Higuchi Y, Nakajima S, Sasabayashi D, Nakamura M, Ueno M, Mizukami Y, Nishiyama S, Takahashi T, Sumiyoshi T, Suzuki M. Features of Duration Mismatch Negativity Around the Onset of Overt Psychotic Disorders: A Longitudinal Study. *Cereb Cortex*. 2020 Dec 21;bhaa364. doi: 10.1093/cercor/bhaa364.
- 3) Takahashi T, Tsugawa S, Nakajima S, Plitman E, Chakravarty MM, Masuda F, Kurose S, Ochi R, Matsushita K, Sasabayashi D, Nakamura M, Nishikawa Y, Takayanagi Y, Nishiyama S, Higuchi Y, Mizukami Y, Furuichi A, Kido M, Hashimoto R, Noguchi K, Fujii S, Mimura M, Noda Y, Suzuki M. Thalamic and striato-pallidal volumes in schizophrenia patients and individuals at risk for psychosis: a multi-atlas segmentation study. *Schizophr Res*, in press. DOI: 10.1016/j.schres.2020.04.016

【症例報告】

- 1) Nishiyama S, Sumiyoshi T, Higuchi Y, Suzuki M. Potential efficacy of cognitive behavioral therapy on neurocognitive

function: a case of ultra-high risk for psychosis. *Jpn Bull Soc Psychiat*. 2020 Feb; 29(1): 10-20.

- 2) 樋口悠子, 高橋 努, 笹林大樹, 西山志満子, 鈴木道雄. 神経発達症を背景に、精神病リスク状態から統合失調症を発症した1例～mismatch negativity測定結果からの考察～. *予防精神医学*. 2020 Dec; 5(1): 62-71.

【総説】

- 1) 樋口悠子, 住吉太幹, 立野貴大, 中島英, 西山志満子, 高橋努, 鈴木道雄. 統合失調症および精神病発症リスク状態に対するMMNの臨床的有用性. *臨床神経生理学*. 2020 Dec; 48(6): 650-655. DOI: <https://doi.org/10.11422/jscn.48.650>

【マニュアル】

- 1) 西山志満子. いじめの実情. 心の健康発達・成長支援マニュアル 2020. 日本医療研究開発機構 (AMED) 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野) 「児童・思春期における心の健康発達・成長支援に関する研究」(研究代表: 水野雅文), 26-33, 2020
- 2) 西山志満子, 高橋 努, 樋口悠子, 鈴木道雄. 専門家からみたワンポイントアドバイス. 心の健康発達・成長支援マニュアル 2020 日本医療研究開発機構 (AMED) 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野) 「児童・思春期における心の健康発達・成長支援に関する研究」(研究代表: 水野雅文), 57-60, 2020

【学会報告】

- 1) 樋口悠子, 高橋 努, 立野貴大, 中島 英, 水上祐子, 西山志満子, 住吉太幹, 鈴木道雄. 早期精神病研究におけるMMNの役割. シンポジウム「Mismatch negativity (MMN): 統合失調症バイオマーカー」. 第116回日本精神

- 神経学会; 2020 Sep 28-30; 仙台 (オンライン). (シンポジウム・ワークショップ パネル)
- 2) 樋口悠子, 立野貴大, 中島 英, 水上祐子, 西山志満子, 高橋 努, 住吉太幹, 鈴木道雄. 精神病性障害におけるバイオマーカーとしてのミスマッチ陰性電位の役割. シンポジウム「ミスマッチ陰性電位の精神科臨床応用」. 第50回日本臨床神経生理学会; 2020 Nov 26-28; 京都 (オンライン). (シンポジウム・ワークショップ パネル)
 - 3) 西山志満子. 精神病性症状を呈する大学生への保健管理センターにおけるCBTp事例 (シンポジウム). 第20回日本認知療法・認知行動療法学会; 2020 Nov. 21-23; 京都 (オンライン).
 - 4) 樋口悠子, 住吉太幹, 立野貴大, 中島 英, 水上祐子, 西山志満子, 伊藤博子, 笹林大樹, 高橋 努, 鈴木道雄. 統合失調症および精神病発症リスク状態におけるOmega-3不飽和脂肪酸製剤の効果. 第50回日本臨床神経生理学会; 2020 Nov 26-28; 京都 (オンライン). (ポスター)
 - 5) 立野貴大, 樋口悠子, 中島 英, 笹林大樹, 中村美保子, 上野摩耶, 水上祐子, 西山志満子, 高橋 努, 住吉太幹, 鈴木道雄. 持続長ミスマッチ陰性電位の統合失調症発症前後における縦断的变化. 第50回日本臨床神経生理学会; 2020 Nov 26-28; 京都 (オンライン). (ポスター)
 - 6) 中島 英, 樋口悠子, 立野貴大, 笹林大樹, 中村美保子, 上野摩耶, 水上祐子, 西山志満子, 高橋 努, 住吉太幹, 鈴木道雄. 精神病発症リスク状態における事象関連電位の縦断変化と臨床経過との関連. 第50回日本臨床神経生理学会; 2020 Nov 26-28; 京都 (オンライン). (ポスター)
- 【その他】**
- 1) 西山志満子. 新型コロナウイルスがもたらす心理的影響とストレスマネジメント. 富山大学特別公開オンラインセミナー“ウィズコロナ”にむけて; 2020 Jul 11. 富山.
 - 2) 西山志満子. 思春期・青年期のこころのリスクと早期介入. 令和2年度ゲートキーパーネット富山研修会; 2020 Dec 5. 富山.

杉谷キャンパス

分室長・教授(併)	山本 善裕	Yoshihiro Yamamoto
准 教 授	石木 学	Ishiki Manabu
看 護 師	高倉 一恵	Kazue Takakura
看 護 師	野口 寿美	Hitomi Noguchi
公 認 心 理 師	荊澤 貴史	Takafumi Barazawa
公認心理師(非常勤)	柴野 泰子	Yasuko Shibano

石 木 学

【原 著】

- 1) Iwata Minoru, Kamura Yutaka, Honoki Hisae, Kobayashi Kaori, Ishiki Manabu, Yagi Kunimasa, Fukushima Yasuo, Takano Atsuko, Kato Hiromi, Murakami Shihou, Higuchi Kiyohiro, Kobashi Chikaaki, Fukuda Kazuhito, Koshimizu Yukiko, Tobe Kazuyuki. Family history of diabetes in both parents is strongly associated with impaired residual β -cell function in Japanese type 2 diabetes patients. *Journal of Diabetes Investigation*. 2020;11:564-572

【学会報告】

- 1) 圓角麻子, 瀧川章子, 朴木久恵, 四方雅隆, 八木邦公, 桑野剛英. 西村歩, 渡辺善之, 角朝信, 岡部圭介, 藤坂志帆, 石木学, 戸邊一之. 2型糖尿病における血中グルカゴン濃度とインスリン分泌・抵抗性指標との関連. 第63回日本糖尿病学会年次学術集会学会; 2020 Oct 05-16; 滋賀(オンライン)
- 2) 四方雅隆, 朴木久恵, 圓角麻子, 瀧川章子, 神原健太, 藤坂志帆, 石木学, 岩田実, 中條大輔, 八木邦公, 戸邊一之. アテゾリズマブ使用中に発症した複数の膵島関連自己抗体を有する急性発症1型糖尿病の1例. ; 2020 Oct 05-16; 滋賀(オンライン)
- 3) 石木学, 三原弘, 関根道和, 廣川慎一郎, 稲寺秀邦, 足立雄一. 医学生への早期介護体験実習での自己または他者への視点の検討. 第52回日本医学教育学会大会; 2020 July 17-18;

鹿児島(オンライン)

- 4) 三原弘, 石木学, 廣川慎一郎, 関根道和, 足立雄一. 臨床実習後OSCE成績の予見因子は何か. 第52回日本医学教育学会大会; 2020 July 17-18; 鹿児島(オンライン)
- 5) 三原弘, 石木学, 廣川慎一郎, 関根道和, 足立雄一. 臨床実習生に対するシミュレーション実技の実施・ピア評価の自動解析プログラム構築. 第52回日本医学教育学会大会; 2020 July 17-18; 鹿児島(オンライン)
- 6) 岡澤成祐, 木戸敏喜, 三原弘, 石学, 関根道和, 北島勲, 足立雄一, 猪又峰彦, 戸邊一之. Moodleを利用した前内科系実習の経験済み項目データの個別フィードバックの試み. 第52回日本医学教育学会大会; 2020 July 17-18; 鹿児島(オンライン)
- 7) 石木学, 八木邦公, 戸邊一之. ワークショップ①「CDEL活動:現状と課題」. 第94回日本糖尿病学会中部地方会; 2020 Sep 19-20; 岐阜(オンライン)
- 8) 石木学, 高倉一恵, 野口寿美, 福島佐和子, 山本善裕, 松井祥子. 新型コロナウイルス感染症禍での健康診断. 第58回全国大学保健管理研究集会; 2020 Nov 25-26; 京都(オンライン).

【その他】

- 1) 石木学. 糖尿病予防のための基礎知識; 富山市南保健福祉センター糖尿病予防講座; 2020 Nov. 30; 富山

高岡キャンパス

分室長・准教授(併)	清水 克朗	Shimizu Katsuro
内科医(准教授)	中川 圭子	Keiko Nakagawa
看護師	宮田 留美	Rumi Miyata
公認心理師(非常勤)	柴野 泰子	Yasuko Shibano
公認心理師(非常勤)	大浦 暢子	Nobuko Oura
公認心理師(非常勤)	久湊 尚子	Hisaminato Naoko

